

独立行政法人国立病院機構四国がんセンターを受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

当院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査の後に保管されている残った試料（血液・細胞・組織など）を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報や保管されている試料（血液・細胞・組織など）を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	非小細胞肺癌完全切除例における病理組織因子に基づく予後予測スコアリングシステムの開発研究（多機関共同後方視的解析）
研究機関名	独立行政法人国立病院機構四国がんセンター
試料・情報の提供を行う研究機関の長	独立行政法人国立病院機構四国がんセンター 病院長 （試料・情報の提供元の管理責任者）
試料・情報の提供を行う研究機関の研究責任者（個人情報管理者）	（診療科名）呼吸器外科 （職名）外来部長 （氏名）重松 久之
対象となる方	2015 年 1 月から 2023 年 12 月に当院で完全切除術が施行され、pStage I 非小細胞肺癌と診断された 18 歳以上の患者
利用する試料・情報等	（利用するカルテ情報）性別、年齢、手術日、合併症、既往歴、身体所見、血液検査データ、画像検査データ、病理検査データ、治療状況、予後調査で得られた再発や予後に関する情報等 （利用する試料）通常の診療で使用した後に残った試料（血液・細胞・組織など）
研究の概要（目的・方法）	肺癌は日本で多くの方が亡くなっている癌の一つであり、その多くを非小細胞肺癌と呼ばれるタイプが占めます。手術で癌を完全に切除できた場合でも、その後の再発や生存期間には個人差があることが知られています。最近では、癌が胸膜や血管、リンパ管、気道内にどの程度広がっているかという病理所見が、予後に影響する因子として注目されています。本研究は、これらの所見を組み合わせることで、手術後の再発や生存をより精密に予測する方法を検討することを目的としています。
個人情報の保護について	この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたし

	ます。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。 また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	独立行政法人国立病院機構四国がんセンター・呼吸器外科 重松久之 791-0280 愛媛県松山市南梅本町甲 160 番 Tel: 089-999-1111

【共同研究について】

この研究は、以下に記載の他の病院や研究機関と共同で行っています。

対象となる患者さんの試料・情報等は、氏名や住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を除いた上で、記録媒体を主管機関である愛媛大学医学部附属病院に提供します。多くの情報を解析することで、医学・医療の発展に役立つ成果が得られることが期待されます。

【研究組織】

研究代表者	愛媛大学医学部附属病院 心臓血管・呼吸器外科 杉原貴仁
共同研究機関	岡山大学病院 呼吸器・乳腺内分泌外科 豊岡伸一 山口宇部医療センター 呼吸器外科 井野川英利 香川県立中央病院 呼吸器外科 三竿貴彦 姫路赤十字病院 呼吸器外科 田尾裕之 四国がんセンター呼吸器外科 重松久之 高知大学医学部附属病院呼吸器外科 田村昌也